



# 今月の大槌とびと

金崎 拓也 さん (40)  
小松 康朗 さん (34)

## 大槌町消防団第1分団第2部

大槌町消防団の中堅世代となるお二人にインタビュー。  
お二人のお話は2ページからの特集記事でも紹介しています。



小松さん(以下小)——私も同じで、

職場での誘いがきっかけです。同僚や同じ年代の人がいると最初は心強いですよね。

### 消防団活動は「郷土愛」

お二人にとつて、消防団を一言で表すと何でしょう。

### 入団のきっかけは 仕事仲間からの声かけ

消防団に入ったきっかけを教えてください。

金崎さん(以下金)——自分の会社の人が入っていて誘われていたので、興味は持っていました。知り合いがたくさんいたので、入りやすかったように思います。

### 仕事以外で地域と関わる場

小——私は「仕事以外で地域と関わる場」ですかね。仕事上の役職や肩書って一応ありますけど、それは職場の中の話。いち町民としての地域との関わり方が、私にとっては消防団だと思います。

### 知識や技術の向上と 消防団の雰囲気づくり

これからの活動への思いなどを聞かせてください。

金——火災の現場に行った時に、一番近い消防水利(川や防火水槽、消火栓など)の位置がすぐ分からないことなどがあるので、もっと場所を

覚えていきたいと思っています。ベテランやOBの人たちは、細かいところまで詳しいんですよ。あとは、日々の現場でも慌てず平常心を保つために、知識と技術の向上をしていきたいです。

小——消防団は、本来の役割の他に、多世代、他職種が集まり、情報共有ができる貴重な場です。地域コミュニティにとつても大事だと思うので、もっと若い人や新たなメンバーに入ってもらい活動を続けていける様に、団の雰囲気や環境づくりを担って行けたらと思っています。技術的な面は先輩にお任せして、私はそっちに力を入れていきます(笑)。

